

No.476  
2023年  
9月5日  
(火)

# つくしんぼ

9月号  
(長月)  
文責：瀧口

日中は夏と変わらないような暑い日もありますが、日が落ちるのが少しずつ早くなってきましたね。暑い、熱い(の漢字でもよいような)夏でしたが、いかがお過ごしでしたか？

8月31日から、2学期の指導を始めました。子ども達に夏の思い出をたずねると、満面の笑みで「7回ぐらい海へ行った!」「長崎へ旅行した!」と聞くだけで楽しくなるみやげ話をしてくれています。そんななか「先生は楽しい夏休みでしたか?」とたずねてくれた3年生の子がいました。「先生にも聞いてくれるの?!」とびっくりしましたが、なんだか嬉しくて。(「会話」ってそういうものだった)と『子どもへの傾聴』にとらわれすぎていたなと気づいた午後でした。

先生達、出張や研修が復活して、たくさん勉強してきました。パワーアップしてますよ!



## 7月6日 「通級指導教室説明会」

毎年行っている説明会です。今年も市内のこども園、保育所、小学校、中学校、市役所健康医療課などから26名の参加がありました。熱心にメモを取り、耳を傾けてくださいました。ありがとうございました。「1人の100歩より、100人の1歩!」これからも、よろしく願いいたします。



## 8月23日 「新見南小学校校内研修」



「児童への関わり方(吃音・難聴)」についてお話させていただきました。先生方の眼差しは、自分がどのように児童と向きあうか、真剣に考えていらっしゃるものでした。通ってきている児童の成長を一緒に見守る者として心強く思っています。



## 8月31日 「養護実習生へことばの教室の説明」

二人の新見公立大学の学生さんが、養護実習に来ています。「ことばの教室」とはどのような場所なのか、どのような児童が通ってきているのか話をしました。指導で使っている教材を実際に体験してもらい、「特別支援教育」についても考えてもらいました。ぎっちりスケジュールの実習のなか、感想を書きくれました。短い時間の説明でこれだけ真摯に考えてくれたことを嬉しく、頼もしく感じました。きっと困っている子を見逃さず、寄り添える養護教諭になってくれると思います。

私が印象に残っていることは、子ども自身が、自分の特性について、よく理解して普段の生活を送っていたり、指導中不得意なことは、協力を求めたりすることを「特別なこと」と捉えていない考え方です。支援のために児童理解が重要ですが、児童にとって必要なこと、自分で解決できることがあると認識し、過不足のない実践をされていると知りました。また、本人の捉え方次第では、訓練は必要ではなく、それよりも周りの人や環境を整えることが効果的だと感じました。

これから養護教諭として、子ども達と向き合うことがあると思いますが、児童の思いに寄り添い、ニーズにあった対応ができるように、コミュニケーション能力を向上させていきたいと思いました。「ことば」に困難さがあったとしても、必要な支援を受けることができ、安心して社会に参加できるように支援していきたいと思えます。

新見公立大学 中里 羽流

私は「言語発達に遅れがあるとは何か」という問いかけに「ことばを発することが難しいこと」のようなぼんやりとした解答しか思い浮かびませんでした。しかし、話を聞き、私たちは普段、話をする際、様々な処理を頭の中で行っており、一言で「障害」と言っても、個々で困っている段階がちがうのだということを知りました。このような個に合わせて、改善・克服を図っているのが『ことばの教室』であり、様々な子ども達が学習を行っていると分かりました。このような場所が学校内にあることによって、身近な場所に安心して通うことができると感じました。

また、私自身が、「吃音をもっている方の話を聞く時には励ました方がいい」という誤った認識を持っていたことに気づきました。知識がなければ、知らず知らずのうちに人を傷つけてしまうのだということを感じました。今回お話いただいたことを忘れず、多くの子ども達と関わってきたいです。

新見公立大学 三木 詩央里